

道路の改良に就いて

内務省土木局長 三邊長治

古來道路は人類の生存する至る所に設置されて、經濟上文化上に甚大の貢献を爲し來つたのである。往時に於いては道路は單に歩行者と牛馬車輶との要求に應ずる土地を設備して、此等のものゝ一般の自由使用に放任されてゐたのであつた。従つて道路の交通上に於ける價値效用は比較的に重要視されざる觀があつた。

然るに輓近道路交通要具の種類形體は複雜多岐となり軌道あり、又自動車あるに至つたのである。殊に自動車の顯著なる進歩發達は道路をして鐵道に對抗し得る特色ある近代的交通機關たらしめたのである。

此處に於て、道路を改良し、交通機關を統整し、經濟文化の進展に基盤付け、一般大衆の日常生活に低廉なる近代的道路交通要具の利便を供與することは道路行政の眼目となつたのである。この事たるや獨り我國已に限られたるものに非ずして歐米各國に於ても亦然りである。

この道路行政の眼目とする所が完全に實現されんか、國民經濟の安固と、產業の合理化とに對して
も多大の貢獻を爲し得るものと信ずるのである。

二

現在我國に於ける道路は國道約二千百里、府縣道約二萬四千里であるが、其の中でも現代の道路交通の要求に應じ得るものは極めて僅少に過ぎない狀態である。ために歐米各國よりの來朝者が口を極めて我國道路の不整備、欠點を指彈して「日本には通路はあれども道路なし」とまで惡言を放つに至つたのである。

斯如く我國の道路が他の文化施設に對比してその改良整備の著しく遅れたるは、封建時代に故意に道路交通の利便を阻害して、割據の風を爲したるの余弊の然らしめたものであらう、特に明治以後近代に於ては上層建築の設置のみに没頭して、それが基礎たるべき道路の改良整備には餘り意を用ひざると共に更に陸上交通要具として汽車の開通を見るに至り、主力をこの方面に注ぎ鐵道萬能の狀態を出現し、今尙この情勢より目覺めないものがある程であるが故に、道路はこの鐵道萬能に壓せられて多く顧られなかつた感がある。従つて我が國道路の大部分は路幅は狭く、屈曲は多く、勾配は急にして、路面は不陸のまゝに放置され、道路の目的たる一般交通の用に供せらるゝ上に於て多大の不便を感じる状態にあるのである。素より道路の改良整備に就いては以前より當局者並に識者に依りて考究されつゝあつたのであるが、最近自動車の普及發達するに及んで道路の不整備と欠點と

は一般に痛切に感ぜられるに至つた。然も自動車の普及發達は實に日進月歩であつて、自動車による道路の使用は急速に要求される様になつて來たが、我國現在の自動車數は米國のそれには比すべくもない次第であるが其の増加の趨勢に至つては實に驚嘆に價ひするものがある。従つて現在の如き悪道路に於てすら自動車の運送力は偉大にして、鐵道運送は甚しき脅威を感じつゝある様な次第である。其の結果自動車が直接運送機關として益々發達し普及するに至れば鐵道運送に代るべき時代の到來することは必しも夢想とは思はれぬ状況である。斯くの如くにして道路行政は益々重要性を加へ道路の改良の一日もゆるがせにすべからざる所以も亦此處にある。

三

次に道路が改良され整備し、道路交通要具が發達し普及するに至つたならば地理的には遠隔せる土地も經濟的には距離が短縮せしめられる。従つて土地の利用は増加するし、その產出物は或は生産品として、或は原料品として迅速且低廉に供給地から需要地に輸送し得られるに至るから生産費は減少し産業の發達を助成するに役立つことは言ふ迄もないことである。

近世になつて國民經濟生活が顯著なる進展を遂げた原因には種々あるが、道路及交通機關の改良進歩がその重要な原因の一であることは見逃すべからざるものである。

然も世界に於ける外國貿易の約八割は海上交通要具に依りて行はれてゐるのが現在の狀態であるが、その驚くべき偉大なる海上輸送力も陸上運送力に比較する時は遙かに劣つてゐる。陸上に於

ては海上に於けるよりもより大量の貨物を運送し得るのである、現に運送してゐるのである。故に直接之が運送の任に當つてゐる道路及他の陸上交通機關は更に一層その重要性が認められるのである。

各種の交通機關は各々特異の機能を保有してゐてその間何等の優劣を付け難いことは勿論であるが、就中時勢の進運に應じて目覺しき發達を遂げ、我國經濟界特に産業界に甚大なる効績を残したもののは鐵道輸送の力であつた。

曾て鐵道萬能の叫ばれたのも所以なきに非ずである。然乍ら鐵道は建設に多數の費用を要し、長距離大量輸送の特質を發揮するに非ざれば經營が困難であるが、道路の建設費は遙かに少額であつて、然も道路に依る自動車運送は軒先運送に適し、仲介経費を省略する特長を有する上に、自己固有の快速力を以つて、生産品或は原料品を供給地より市場へ、旅客或は貨物を軒先へ直接且迅速に運送し、運賃の如きも鐵道のそれに比較して低廉であるが故に自動車運送は時代の需要に應じて普及發達し得る可能性を大いに有すると共に現在に於いても上述の如く顯著なる發達を遂げ、その結果鐵道運送はそれに代られんとしてゐる狀態である。最近鐵道省に於て自動車交通網を確立せんと計畫せられたことはこの間の事情を明らかにするものであると思ふのである。

然し乍ら前述の如くに鐵道は鐵道として特異の機能を有するものであるから自動車運送が普及發達したからと言ふて直ちに鐵道の不必要を招來するものではない、却て兩者は相依り相助けて交通運送に從事するものである。即ち自動車運送は或は單獨に或は鐵道の營養機關として交通上、運

送土の重要な地位を有するものである。

自動車運送は將來尚十分に發達し、特異の機能を發揮し得る機運が必ずや到來すべきであると思はれるが、これに依りて我國經濟特に産業は大いに振興され、一般大衆の日常生活の安定向上に資することが多大なものがある。近時自動車道路の改良とか或は産業道路の改良とか名目は異なるとしても頗る道路改良の聲の喧しくなつたのも亦此の如き理由によるに外ならない。

四

自動車交通に適する道路の改良の方法に二ある。一は自動車専用道路の開設にして、二は既存道路の改良整備である。交通政策の見地よりして自動車専用道路を開設するか、或は既存道路の改良整備のみに依つてその上に自動車を走らせるかは相當重要な研究に價する問題である。現在我國に於ては陸上運送は海上運送に比較し多大の運賃を要する状況である。然もこれ等の運賃は日常消費される物資の價格の中に算入されるのであるから、國民經濟上自動車運送の發達は緊急の問題であるに拘らず自動車運送に利用せらるべき道路は現在に於ては改良整備の余地を大いに存してゐる。何等の無理なしに自動車が通行しえべき道路は實に僅少と謂ふべきで、國內幹線道路にして尚且つ普通車輛を通行せしめることの困難なものがある状態であるから、其の他の道路に至つては殆んど言ふに足らないのである。

斯の如き状態であるが爲めに政府を始め道路管理者に於てはこゝに意をそゝぎ、道路の改良を以

て道路行政の主要なる使命と爲してゐる次第である。

一般供用性を有する道路を改良して自動車の効用を發揮せしむるがためには、既存道路の改良のみが最良最善の方法ではなく、自動車専用道路の開設も亦必要となる次第である。蓋し交通頻繁なる特定區間に多額の経費を投じて既存道路を改良し自動車運送の利便を圖ることも善いが之に代るべき自動車専用の道路を開設せんとする企業家があれば寧ろ之を認むることが得策である。

故に自動車交通に適する道路の改良に上述の二方法がある。現在に於いては政府は既存道路の改良を圖ると同時に自動車専用道路の開設をも認め兩々相俟つて自動車交通の要求に應ぜんとして居る次第である。既存道路の改良に關しては往年政府が計畫せる道路改良計畫あり、自動車専用道路の開設に關しては自動車専用道路法案が實現せんとしてゐる。

五

道路の改良整備は上述の如く種々の理由によりて緊急なる問題である。道路特に國道府縣道を改良整備し、自動車専用道路法案の制定に依りて自動車交通に貢献すべき、道路即自動車専用道路を新に開設して自動車運送の全能力を發揚せしめるることは文化上に利するのみならず、逼迫せる産業を振興せしめ、國民經濟に資する所以である。この事たるや政府のみにしては實現し難きことであ

るが故に世の有志諸君も亦我が國の現状に鑑み、叙上の理由を理解せられ官民相協力して斯業の發達の爲めに盡力されんことを切望して已まざる次第である。

道路改良問題の歸趣

道路改良會
事 桐 島 像 一

道路網の完成並にその維持、管理が産業活動の根幹をなすは言を俟たない、本邦の道路施設は封建時代の遺物として近代産業國家の理想に副はざるものあり、根本的の建直しを緊要とするも長く顧みられなかつたが、大正八年を一轉期として同年道路法が制定せられ、從來閑却された道路が茲に必然國法上の存在となり、朝にありては道路會議野にありては我が道路改良會の設立あり、道路に無関心なる民心を刺戟する所があつた。續いて東京始め全國の主要都市に都市計畫事業勃然として起り、此の間所謂産業道路開設計畫或は自動車道路網の計畫等の論議を見るに至つて、道路法制定以來過去拾年の間に、國內道路改善の趨向顯著なるは同慶の至りと云はねばならぬ。